

07 高岡市文化財保存活用地域計画【富山県】

【計画期間】令和8～13年度（6年間）

【面積】209.58km²

【人口】約16.4万人



おくのほそ道風景地—有磯海—



【関連計画等】

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」（H28年度）、日本遺産「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡—人・技・心—」（H27年度）・「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(H30年度)、歴史的風致維持向上計画（第2期、R3～12年度）

歴史文化の特徴

①豊かな水の恵みによる人々の営み ～西山丘陵・小矢部川・庄川扇状地～

西山丘陵が連なる小矢部川左岸は、古墳が集中するなど早くから人口集積が進んだ地域であった。右岸は庄川扇状地の湧水帯によって、古くから稲作が行われ、近世に形成された散村の風景が現在も残される。

②陸・川・海でつなぐ人とモノの交流 ～北陸道・北前船・鉄道～

小矢部川の舟運や伏木の港津機能は、古代より重要な交通機能として利用されてきた。加越能三州の要として築かれた高岡は、物流・経済の中心として発展し、近代には県内初の鉄道を敷設するなど時代を通じて交通の要衝になっている。

③大伴家持が愛した越中の風土 ～越中国府と万葉集～

伏木台地は、北陸最古級の寺院である御亭角廃寺をはじめ、越中国府の国庁や国分寺が置かれたほか、国守として赴任した大伴家持が数々の歌を詠むなど、古代から越中の政治・文化の中心となっていた。

④土地や人に根ざした信仰 ～祭礼行事と大寺院～

古代の土地に根差した信仰、中世に広まった多様な仏教信仰は、高岡における文化財の形成の歴史を語る上で重要である。また、信仰と深く結びついている祭礼行事は、高岡独自の歴史的風致を形成している。

⑤バイタリティ溢れる町民のまち ～職人と商人のまちへ～

高岡中心市街地は、加賀藩2代藩主・前田利長により近世初期に形成された高岡城下町を礎としている。城下町は商工業の町へと転換され、「加賀百万石の台所」として、藩を支えた。

⑥受け継がれるものづくりの精神 ～伝統と挑戦～

近世以降、商工業都市として発展する中で銅器や漆器などの伝統工芸と技術が発展した。伝統技術を守りつつ時代に応じたものづくりに挑み続ける精神は、現在も息づいている。

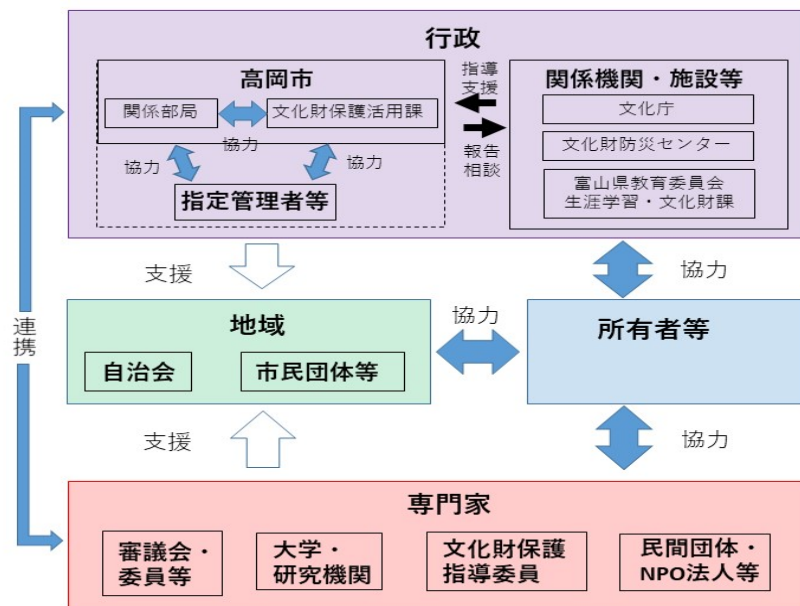
指定等文化財件数一覧

(令和6年3月現在)

類型	国				県		市	総数
	指定	選定	選択	登録	指定	登録		
有形文化財	建造物	8	-	-	39	1	-	53
	絵画	2	-	-	0	1	-	7
	彫刻	2	-	-	0	5	-	19
	工芸品	2	-	-	0	4	-	25
	書跡・典籍	1	-	-	0	1	-	5
	古文書	0	-	-	0	1	-	14
	考古資料	0	-	-	0	0	-	4
	歴史資料	0	-	-	0	3	-	0
無形文化財	0	-	0	0	0	0	1	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	-	-	1	0	-	4
	無形の民俗文化財	2	-	0	0	1	0	5
記念物	遺跡	3	-	-	0	4	-	14
	名勝地	1	-	-	0	0	-	1
	動物、植物、地質鉱物	0	-	-	0	2	-	10
文化的景観	-	0	-	-	-	-	-	0
伝統的建造物群	-	3	-	-	-	-	-	3
合 計	22	3	0	40	23	0	91	179

指定等文化財は179件、未指定文化財は1,802件把握

推進体制



視点

課題

1 調べる

- ①多くの文化財が把握できていない
- ②調査・研究が十分ではない

2 守る

- ①文化財所有者・担い手等の減少・高齢化
- ②修理・整備が十分でない
- ③収蔵庫が十分でない
- ④災害・被害リスクの把握が十分ではない
- ⑤防災・防犯対策が十分ではない
- ⑥被災文化財への対応

3 伝える

- ①情報発信が十分でない
- ②文化財を知る機会が十分でない

4 活かす

- ①公開・活用の充実が必要
- ②周辺環境整備が十分でない
- ③観光活用の充実が必要

5 支える

- ①行政の連携体制の円滑化
- ②地域における保護体制が十分ではない
- ③文化財保護の支え手の減少

方針

- ①文化財把握調査の推進
- ②計画的な調査の推進

- ①文化財所有者・担い手等への支援
- ②指定等文化財の整備の推進
- ③収蔵保管方法の検討
- ④文化財の状況把握
- ⑤防災・防犯対策の推進
- ⑥被災文化財の復旧

- ①文化財情報の内容・発信の充実
- ②郷土学習機会の充実

- ①公開・活用の推進
- ②周辺環境整備の推進
- ③文化観光の推進

- ①行政の連携体制の整備
- ②所有者等、地域、専門家と行政の連携体制の強化
- ③文化財保護の支え手の育成

措置の例

1-①-2 地域資料継承支援事業

産学官連携によって、地域資料（古文書等）の把握調査を行う。

- 行政・所有者等・地域・専門家
- R8～13



2-①-8 文化財等修理補助事業

文化財の保存修理を行うことで高岡の伝統技術の継承を図る。

- 行政・専門家
- R8～13



2-②-3 高岡城跡保存活用事業

保存活用計画、整備基本計画に基づく保存整備事業を実施する。

- 行政・所有者等・専門家
- R8～13



3-②-5 「高岡再発見」プログラム事業

児童が家族と一緒にスタンプラリー形式で文化施設を見学する。

- 行政
- R8～13



4-①-2 ミラレ金屋町開催事業

町家暮らしや伝統文化を体験する「ミラレ金屋町」を開催する。

- 行政・所有者等・地域
- R8～13



5-②-3 地域の歴史文化資産調査支援事業

地域が専門家とともに美術工芸品の文化財調査を支援する。

- 行政・所有者等・地域・専門家
- R8～13



7つの関連文化財群

①水の恵みと米づくりに関わる文化財群

小矢部川左岸は県内で最も古墳が集中し、早くから栄えた。右岸は古くから稲作が行われ、加賀藩の財政を支える穀倉地帯となった。福岡周辺では菅栽培が行われ、菅笠は特産品となっている。

菅田と菅干し



⑤祭礼行事に関わる文化財群

祭礼は、神への感謝と祈念の行事であり、住民の情熱が注ぎ込まれた。高岡御車山祭や獅子舞など、古くからの精神や作法等を伝える。

高岡御車山祭の御車山行事



②交流と物流に関わる文化財群

小矢部川と庄川の水運と伏木の港により多くの人とモノが行き交った。近世の高岡は物資の集散地として藩の経済の一翼を担った。明治に入ると鉄道や港などの近代化を行い発展した。

旧秋元家住宅



⑥商工業のまちの成立と繁栄に関わる文化財群

高岡城の廃城後、商工業都市に転換した高岡は藩の経済の一翼を担った。商人が蓄えた資本は明治以降、産業基盤などに投資して近代化を図り、「北陸の商都」と呼ばれた。

山町筋伝統的建造物群保存地区



③大伴家持と越中万葉に関わる文化財群

万葉歌人の大伴家持は越中国守であった。『万葉集』のうち越中に関わる337首は、「越中万葉」と呼ばれ、自然景観や国守の職務の一端を今に伝える貴重な資料である。

大伴家持像



⑦ものづくりに関わる文化財群

ものづくりの歴史は弥生時代の玉づくりに遡る。近世の高岡は鋳物や染物、漆器など職人の町であった。鋳物は明治に美術工芸品としての技術も向上した。高岡のものづくりは今も発展し続けている。

高岡銅器



④大寺院と仏教文化に関わる文化財群

北陸最古級の廃寺や越中国分寺など古くから仏教が盛んである。市内には国泰寺や勝興寺、瑞龍寺などに多くの文化財が残されている。仏教は銅器や漆器、仏壇など産業に大きな影響を与えた。

瑞龍寺



日本遺産も「ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用」していく関連文化財群である。

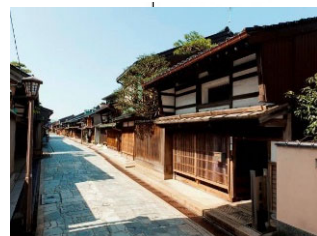
加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡
—人・技・心—

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～

概要 近世、高岡町は商人の町であり職人の町であった。家具や漆器のほか、染物、和傘などが生産されたが、最も特徴的なものは鋳物である。最初は、鍋・釜などの鉄器具類が作られていたが、やがて銅器を生産するようになった。高岡の商人は、広く販路を求めるとともに顧客の用など様々な情報を持ち帰り、鋳物師・細工師・仏具師らを結びつけ、需要に応じた様々な銅器を生産した。江戸時代後期には全国各地に販路を広げ、19世紀中頃からは海外貿易も行った。明治時代には、金沢や富山などから彫金師達を吸収し、美術工芸のさらなる技術向上を図り、万国博覧会で賞を得る一方で、設備の近代化を図り、工業品として販路を拡大した。高岡産のニシン釜は、明治の北海道を支えたニシン肥料製造の必需品となり、現在も北海道各地に残されている。鋳物技術を活かしたアルミ産業は高岡の主要な産業のひとつとなっていく。

銅や綿など原料を産出せず、地理的に恵まれているとは言えない高岡において様々な産業が興るのは、高岡にものづくり文化が根付いているからである。市内には、鋳物師の町並みをはじめ、鋳物や漆器の製作技術や道具類、工芸作品などがのこされている。

構成文化財



金屋町伝統的建造物群保存地区
仁安の御綸旨
前田利長書状
鰐口
高岡鋳物の製作用具及び製品

有磯正八幡宮神輿
青銅随神像

時鐘
銅造阿弥陀如来坐像



関連文化財群に関する課題

- ・従事者の高齢化などによって担い手が不足し、事業継続が難しい事業者が出てきている。
- ・ものづくりのまち高岡を支えていくため、市民の意識醸成を図る必要がある。

関連文化財群に関する方針

- ・伝統産業の高度・希少な技術の継承への支援や伝統技術を継承する人材養成を行う。
- ・学校における「ものづくり・デザイン科」事業等、優れた技術を持つ人々と市民の交流の機会を設け、ふるさとの伝統と誇りへの理解を図る。

関連文化財群に関する主な措置

⑦-1 伝統工芸産業人材養成スクール事業

伝統工芸産業に関わる人材に対し、技術習得を目的としたスクール事業を実施。

■行政 ■R8~13

⑦-6 ものづくり・デザイン科推進事業

高岡市の伝統工芸について体験を通じた学習を行う。

■行政・専門家
■R8~13



【参考】関連計画等

高岡市歴史的風致維持向上計画（第2期 令和3～12年度）

高岡市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間
令和3年度(2021)～令和12年度(2030)



本市は、万葉の歌人・大伴家持が越中国守として国府に赴任し、多くの秀歌を詠むなどした万葉の故地である。また、慶長14年(1609)には、前田利長により高岡城の城下町として開町され、前田利常による“城下町から商工業の町へ”の政策の転換により、大きな発展を遂げた。

現在も、伝統的な建築形式をもつ町家など歴史的建造物が多く保存されており、「高岡御車山祭」や「伏木曳山祭」などの祭礼・年中行事、鋳物づくりや菅笠づくりなどの歴史と伝統を反映した工芸技術等が現代にも受け継がれており、周辺の市街地と一体となって固有の歴史的風致を形成している。

1 加賀前田家と商人のまちに見る歴史的風致

商人町である高岡には、豪華絢爛な高岡御車山祭が守り伝えられ、また、瑞龍寺と前田利長墓所では、前田利長公顕彰祭が執り行われており、それらが、商都高岡の積み重ねてきた歴史と伝統、町立て以来受け継がれてきた町民たちの熱い思いが現代に受け継がれている。



高岡御車山祭 ▶

2 鋳物のまち金屋に見る歴史的風致

高岡鋳物発祥の地である金屋町には、利長に報恩感謝の念を表す御印祭があり、弥栄節を歌う様が、伝統的な町家が多く残されている町並みと相まって、鋳物師たちの心意気と情緒を醸し出している。



御印祭 ▶

3 北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致

伏木には、「かつや」と呼ばれる山車をぶつけ合う勇壮な伏木曳山祭(けんか山)があり、みなと町らしさが色濃く残っている。また、御蔵のあった吉久には、伝統的な町家が米商で栄えた歴史を今に伝えている。どちらも舟運によって発展してきた地区である。



伏木曳山祭 ▶

4 勝興寺と寺内町に見る歴史的風致

勝興寺では、古くから御満座法要などの行事が地域の人々の手によって執り行われており、準備や後片付けには、地元自治会など関係者らが集まり、お供え物やデカローソクの運搬などを行っている。



御満座法要 ▶

5 旧北陸道における越中福岡の菅笠づくり及び祭礼行事等に見る歴史的風致

旧北陸道には、特産品の集散地として発展した在郷町があり、そのなかでも福岡町は、菅笠づくりが今もおお続けられており、町並みにはかつての菅笠問屋であった伝統的な町家が残されている。



菅笠 ▶

6 越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致

氣多神社にて奉納される「にらみ獅子」は、天狗がいないことが大きな特徴で、昔から伝承されている素朴な獅子舞である。祭礼行事では、囃子方の音色にあわせ舞う獅子が地区内の家々を巡る。



にらみ獅子 ▶

7 二上山丘陵に見る歴史的風致

二上山を中心とし、国泰寺では開山忌やたけのこ料理、二上射水神社では築山行事が催されており、二上山丘陵を舞台に人々の活動が継承され、それぞれで培われてきた文化が発展し現代に受け継がれている。



二上山 ▶